

# ■ 2024年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

医学部

科目	数学
----	----

## 総括

試験時間	100分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

### 〈総論〉

本大学としては質・量ともに抑えた出題であるが、それゆえに実力差が如実に表れる出題であるといえる。

### 〈特記事項・トピックス〉

- ・3年ぶりに記述式の問題が見られた(グラフを描く問題であった)。
- ・5年ぶりに確率と漸化式の融合題が出題された。
- ・第1問以外で、空間座標を主たる分野とする問題が出題されたのは8年ぶりである。

### 〈合格への学習対策〉

近年の易化傾向が続くとは限らないので、2020年入試以前のレベルを想定して準備しておきたい。易化・減少といっても、一般的なレベルで言えば、決してやさしいわけではないので、計算力と計算のスピードは抜かりなく鍛えておきたい。その上で、本番では確実に取れる問題から、きっちりと処理していくという王道の戦略が重要であることに注意すべきで、そのような練習も受験対策として大切である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I (1)	空所補充	II	平面座標	座標平面上の三角形の外心と内心の座標を求める。内心の求め方はいろいろある。	やや易
I (2)	空所補充	III	楕円	標準形の楕円の接線と両座標軸で囲まれる三角形の面積の最小値を求める。	やや易
I (3)	空所補充	III	最大値 面積	与えられた関数の最大値、およびそのグラフとx軸で囲まれる図形の面積を求める。	やや易
II	空所補充	A, B	確率 漸化式	2つの袋に入っている玉を移動させる確率について、漸化式を作り、それを解く。	やや易
III	空所補充 記述	I, II, III	関数の増減と極値 関数のグラフ 高次方程式 恒等式 定積分の計算 関数の極限	与えられた関数の極値などを調べ、そのグラフを描く。また、その関数を定積分した値と、その値に関する極限を求める。	標準
IV	空所補充	I, B, III	空間座標 体積 2次関数の最大値	座標軸に垂直な平面による四面体の切り口を考察し、四面体の体積を求める。また、1頂点を追加してできる六面体について考察する。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。